

審議した主な議案

令和2年度一般会計歳入歳出決算の認定について

決算の概要は1面に掲載しています。

賛成討論 (要旨)

岸田正義 (みらい)

「財政健全化は明らかに進んでいる」との監査意見どおり、経常収支比率・人件費比率等の財政指数は軒並み改善し、貯金の財政調整基金は14億円増、借金の市債は13億円減。さらに可燃ごみ処理施設の本格稼働、武蔵小金井駅南口再開発の完了など長年の課題が決着。その財源を福祉に充当し、子育て予算の児童福祉費1人当たり金額、人口増加率は共に多摩26市1位と選ばれるまちに変わり始めた。残る新庁舎建設問題を決着し、次の時代の扉を開くことが必要。

反対討論 (要旨)

吹春やすたか (自民党・信頼)

令和2年は新型コロナウイルス感染症に対し国や都の支援策も多く、職員は応援体制を整え対応したことには感謝申し上げるが、市の支援策は危機管理的な状況判断とスピード感を持った行動とは言えず、限定的で消極的な姿勢であった。人件費は全国16位となり市民理解を得られていないか疑問である。庁舎建設も寄せられた市民の声に対し検討内容は不明瞭で、議会の指摘に耳を貸さずとしない市長の独断専行が目立った年であったと指摘し本決算を不認定とする。

反対討論 (要旨)

森戸よう子 (日本共産党)

反対の理由は、①新型コロナウイルス

ワクチンコールセンターの委託費が積算根拠を明らかにしないまま予算計上され、コンプライアンスが問われていること。②リサイクル事業所の存続を求め

る市議会の意思を無視して閉鎖したこと。③市長選挙の公約で都市計画道路はつくらせないと掲げたが、都市計画マスタープラン中間報告案の表現は公約とかけ離れていること。④新庁舎等建設について、実施設計の委託契約を、市議会多数の懸念を無視して締結したことである。

反対討論 (要旨)

宮下 誠 (公明党)

特別定額給付金の支給や保育園事業の推進、新生児特別定額給付金の実施、小中学生に一人一台のPC支給など、補助金や交付金等をフル活用し適切に施策を遂行したことは評価する。しかし、新庁舎建設については、総事業費も明らかにしないまま実施設計を発注した上、いまだに庁内で財政当局と協議が行われていない。また、コロナ禍で多くの市民が不安を抱えている中、庁舎建設だけを聖域化している。市長は住民感情に寄り添っていない。

反対討論 (要旨)

渡辺大三 (情報公開)

国からの通知に従わない形での職員ボーナス支給で年約1千万円、部課長職手当の大幅引き上げで年約400万円、余計な人件費が発生した。類似市である東久留米市に比べて極めて多くの正規職員を雇い、月額制の会計年度任用職員も大幅に上回っている問題が是正されていない。

新庁舎等建設事業は、財政当局との協議のないまま建設費が大幅に引き上げられ、新型コロナウイルス感染症の影響を一切考慮せず、実施設計に踏み切った以上の理由で認定に反対する。

反対討論 (要旨)

安田けいこ (生活者ネット)

「明日の小金井教育プラン」に子どもの権利への大人の理解の重要性が記載された点、子どもオンブズマンの制度設計が市民参加で始まった点は高く評価する。最も評価できないのは、市長の都市計画道路問題への消極的な態度だ。都市計画マスタープラン中間報告(案)に道路推進と見直しを併記し、何も方針を示さず、選挙公約の「市民が望まない道路はつくらせない」という意思がどこにも読み取れない。道路の必要性を議論する場も設定されていない。

反対討論 (要旨)

坂井えつ子 (緑・つながる)

パートナーシップ宣誓制度など、評価できる取組もあったが、以下を主たる理由とし、不認定とする。都市計画道路3・4・1号線、3・4・11号線について、都知事への要望書と、都市計画マスタープランの中間報告(案)に齟齬があること。選挙において、保育園定員を更に千名増加させると公約したが、定員減となる公立保育園の廃園方針(案)の検討を始めたこと。

賛成討論 (要旨)

水谷たかこ (こがおも)

我が会派提案の複数事業が含まれ、賛成するが、付言する。学校給食調理業務委託については、平成25年に約束した「小学校4校の直営維持」を守れず、「4ブロックに分けての指導」も実施できなかったにもかかわらず、市民や議会から質問され

令和3年度一般会計補正予算(第10回)

8月31日の本会議において予算特別委員会(清水がく委員長)に付託し、9月14日の委員

会で審査を行いました。

補正予算の主な内容は、小金井第三小学校での給食調理委託に係る事業者選定の準備のため、の学校給食調理委託料(4千397万7千円)が計上され、債務負担行為として、令和4年度までの期間で設定するものです。

反対討論 (要旨)

片山かおる (市民力エル)

小学校給食調理業務の民間委託の債務負担行為が含まれるため反対する。気候危機の社会を変えるため、都市農業、有機農業の促進が必要。学校給食への納入が農家を支え、無償給食にして子どもたちの発達を公が保障する政策を進める時代である。行革のために、学校給食調理を民間委託するのは、既に時代遅れである。また、子宮頸がんワクチン接種の積極的勧奨は理解できない。ワクチン接種被害者の状況を把握し、市民を被害者にしないよう、強く求める。

賛成討論 (要旨)

たゆ久貴 (日本共産党)

学校給食調理委託に反対する。以前に「新しい経営方針」として直営4校を維持すると約束したものを反故にするものである。委託しても安全でおいしい給食を提供し続けられるかについて、検証機関の設置の確証がなく、市民や保護者の不安は残ったままである。新たに2校を委託しても財政効果がないことも明らかになり、委託する根拠はない。約13億円が前年度繰越金として発生しており、基金に積むのではなく市民生活支援に使うべき。

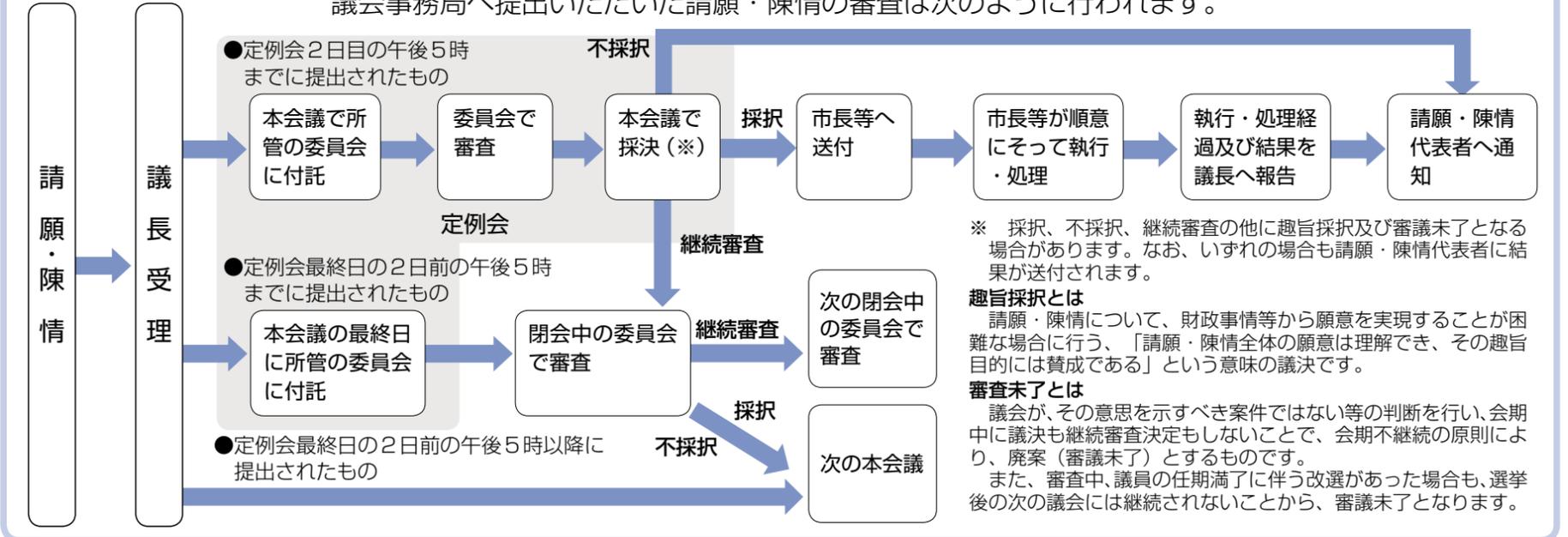
市議会に(仮称)「新型コロナウイルス対策調査特別委員会」を設置することを求める陳情書

白井 亨 (こがおも)

これまで不定期に全員協議会を開催し対応してきたが、市長の都合等もあり定例会直前に半日という不十分なものであった。全員協議会では資料要求ができず、継続的な調査にならない。その都度単発な質疑で終わってしまう。日常の変化から、これまで想定されていたセーフティネットでは守れない方も多くいる。感染症の影響はまだ続くことが予想され、首長のやることを追認するだけの市議会なら不要である。特別委員会を設置し調査を進めることに賛成する。

請願・陳情の審査の流れ

議会事務局へ提出いただいた請願・陳情の審査は次のように行われます。



※ 採択、不採択、継続審査の他に趣旨採択及び審議未了となる場合があります。なお、いずれの場合も請願・陳情代表者に結果が送付されます。

趣旨採択とは
請願・陳情について、財政事情等から願意を実現することが困難な場合に行う、「請願・陳情全体の願意は理解でき、その趣旨目的には賛成である」という意味の議決です。

審査未了とは
議会が、その意思を示すべき案件ではない等の判断を行い、会期中に議決も継続審査決定もしないことで、会期不継続の原則により、廃案(審議未了)とするものです。

また、審査中、議員の任期満了に伴う改選があった場合も、選挙後の次の議会には継続されないことから、審議未了となります。

各案件に対する討論の原稿は、議員が作成しています。